

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	クサカリテイオーL ジャンボ
製品コード	TOJL
会社名	科研製薬株式会社
住所	東京都文京区本駒込 2丁目 28番 8号
担当部門	特薬営業部 特薬営業グループ 製剤直販チーム
電話番号	03-5977-5033
FAX番号	03-5977-5136
メールアドレス	ag_rd@kaken.co.jp
整理番号	KPH018-3

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

【物理化学的危険性】

火薬類	分類対象外	自然発火性液体	分類対象外
可燃性／引火性ガス	分類対象外	自然発火性固体	区分外
可燃性／引火性エアゾール	分類対象外	自己発熱性化学品	区分外
支燃性／酸化性ガス類	分類対象外	水反応可燃性化学品	区分外
高压ガス	分類対象外	酸化性液体	分類対象外
引火性液体	分類対象外	酸化性固体	区分外
可燃性固体	分類できない	有機過酸化物	分類対象外
自己反応性化学品	区分外	金属腐食性物質	区分外

【健康に対する有害性】

急性毒性（経口）	区分外
急性毒性（経皮）	区分外
急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
急性毒性（吸入：粉塵、ミスト）	分類できない
皮膚腐食性／刺激性	区分外
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	区分外
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	区分1
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	区分1A
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器毒性・全身毒性（単回暴露）	分類できない
特定標的臓器毒性・全身毒性（反復暴露）	分類できない
吸引性呼吸器有害性	分類できない

【環境に対する有害性】

水生環境急性有害性	区分1
水生環境慢性有害性	区分1

GHS ラベル要素
【絵表示又はシンボル】



【注意喚起語】 危険

【危険有害性情報】

- ・発癌のおそれ
- ・アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
- ・水生生物に非常に強い毒性
- ・長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

【注意書き】

[安全対策]

- ・使用前に製品ラベルの注意事項をよく読み使用すること。
- ・環境への放出は避けること。
- ・水田除草の目的のみに使用し、使用直後は水管理に注意し、河川への流出を避けること。
- ・取扱いは保護具を着用すること。
- ・使用後は手や顔を良く洗うこと。

[応急措置]

- ・水田以外で誤って流出させた場合、流出物を回収すること。

[保管]

- ・直射日光を避け、冷暗所に密閉して保管する。

[廃棄]

- ・なるべく有効期間内に水田で使い切る。
- ・内容物または容器を廃棄する場合は、該当法規に従い都道府県知事に許可された産業廃棄物処理業者に委託すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 混合物

化学名

ベンスルフロンメチル

メチル=α-(4,6-ジメトキシピリミジン-2-イルカルバモイルスルファモイル)-オトルアート

ブロモブチド

(RS)-2-ブromo-N-(α,α-ジメチルベンジル)-3,3-ジメチルチルアミド

ペントキサゾン

3-(4-クロロ-5-シクロペンチルオキシ-2-フルオロフェニル)-5-イソプロピルピリデン-1,3-オキサゾリジソン-2,4-ジオン

一般名 ブロモブチド・ベンスルフロンメチル・ペントキサゾン粒剤

成分	含有量 %	化学式	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法	安衛法	
ベンスルフロンメチル	1.3	C ₁₆ H ₁₈ N ₄ O ₇ S	8-(2)-1338		83055-99-6
ブロモブチド	22.5	C ₁₅ H ₂₂ BrNO	4-(7)-1142		74712-19-9
ペントキサゾン	9.8	C ₁₇ H ₁₇ ClFNO ₄	8-(7)-1209		110956-75-7
結晶質シリカ	0.5	SiO ₂	(1)-548		7631-86-9
その他の鉱物質微粉等	65.9				

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 被災者を直ちに新鮮な空気のある場所へ移動する。
症状変化が現れた場合には、直ちに医師の手当てを受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぐ。付着した製品を拭き取り、水又は微温湯で洗い流しながら石鹸を使って良く洗い落とす。
外観に変化が見られたり、痛みが続く場合には、速やかに医師の手当てを受ける。
- 眼に入った場合 : 直ちに清浄な水で最低15分間目を洗浄する。洗眼の際、まぶたを指で良く開いて、眼球、まぶたのすむずみまで水が行渡るように洗浄する。コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り、取り除いて洗浄する。異物感が眼に残るようであれば、速やかに眼科医の手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合 : 水で口の中を洗浄し、コップ1～2杯の水又は牛乳を飲ませて、直ちに医師の手当てを受ける。可能であれば、指を咽喉に差し込んで吐き出させる。
被災者に意識のない場合は、口から何も与えてはならない。毛布などで保温して安静に保つ。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 棒状水、霧状水、泡、粉末、二酸化炭素
- 特定の消火方法 : この製品自体は難燃性であるが、周辺火災の場合以下の措置を行う。
火災発生場所の周辺に、関係者以外の立ち入りを禁止する。
移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
容器、周辺の設備などに散水して冷却する。
消火活動は、可能な限り風上から行う。
- 消火を行う者の保護 :
消火作業の際は、状況に応じた保護具を必ず着用する。燃焼又は高温により有毒ガス（窒素酸化物、リン酸化物）が生成するので、呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項 :
漏出した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁止する。
作業の際には保護具を着用し、接触及び粉塵の吸入を避ける。
- 環境に対する注意事項 :
環境への影響を起ささないよう、河川等に排出しない。
- 除去方法 : 漏出したものをすくい、又は掃き集めて紙袋又はドラムなどに回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策 : 取り扱う前には必ずラベルをよく読む。降雨時の散布や、濡れた手で触ると水溶性フィルムが破れる恐れがあり、粒剤に直接接触るとかぶれるおそれがあるので充分注意する。
電気機器類は必要に応じ防爆構造のものを用い、静電気対策も行う。
吸入、皮膚への接触を防ぎ、眼に入らないよう適切な保護具を着用する。
取扱い場所の近くには、手洗い、洗眼などの設備を設け、取扱い後に手、顔などを良く洗う。
- 注意事項 : 取扱う場合は、局所排気内、又は全体換気の設備のある場所で取扱う。
みだりに粉塵が発生しないように取扱う。
- 保管 : 換気のよい乾燥した冷暗所に保管する。直射日光をさけ、食品と区別して低温で乾燥した場所に密閉して保管する。吸湿には充分注意し、使い残りは外袋の口を堅く閉じて保管する。強く加圧されると包装材のフィルムが劣化する恐れがあるので下積みにならないようにする。
- 安全な容器包装材料 : 金属容器、樹脂容器等

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策 : 作業場の空気を汚染しないように、局所排気装置の設置、設備の密閉化または全体換気を適正に行うことが望ましい。

管理濃度 : 設定されていない。

許容濃度 :

日本産業衛生学会 (2006 年版) 吸入性結晶質シリカ : 0.03mg/m³ 吸入性粉塵

ACGIH (2006 年版) TLV-TWA : 0.025mg/m³ A2

保護具

呼吸用保護具 : 防塵マスク

手の保護具 : 保護手袋 (ゴム手袋)

眼の保護具 : 保護眼鏡 (側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)

皮膚及び身体の保護具 : 作業衣、帽子、保護服、保護長靴

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

形状 : 細粒 (水溶性パック入り)

色 : 淡褐色

pH : 7.4

見掛比重 : 0.33

10. 安定性及び反応性

安定性 : 常温・常圧で安定

反応性 : なし

11. 有害性情報

急性毒性 : 経口 ラット(♀) LD₅₀ >2,000mg/kg [区分外]

経皮 ラット(♂♀) LD₅₀ >2,000mg/kg [区分外]

皮膚刺激性 : ウサギ 刺激性なし [区分外]

眼刺激性 : ウサギ 軽度の刺激性 [区分外]

皮膚感作性 : モルモット 陽性 [区分1]

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性 藻類のデータに基づき区分1とした。

水生環境慢性有害性 藻類のデータ及び原体の BCF が 500 < より区分1とした。

魚毒性 : コイ LC₅₀ 96h 94.0mg/L

オオミジンコ EC₅₀ 48h 29.0mg/L

藻類 ErC₅₀ 0-72h 0.13mg/L

13. 廃棄上の注意

製品はなるべく使い切り、空容器は圃場などに放置せず水産動植物に影響の無いよう適切に処理する。

廃棄する場合には、都道府県知事の許可を受けた処理業者に委託する。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連分類	: 9
国連番号	: 3077
国連輸送品名	: 環境有害性物質（固体）、n.o.s.
容器等級	: III
海洋汚染物質	: 該当

国内規制

輸送時の特定の安全対策及び条件：

取扱い及び保管上の注意の項の記載に従う。容器漏れの無いことを確かめ、転倒、落下、損傷の無いように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。水濡れに注意する。

緊急時応急措置指針番号：171

15. 適用法令

農薬取締法 登録番号：第22504号（科研製薬）

16. その他の情報

主な引用文献：

- 1) ラベル・製品安全データシート作成実務必携 GHS 対応国内版
(2007年6月 化学工業日報社)
- 2) [改訂第3版] 緊急時応急措置指針
(2009年9月 (社) 日本化学工業協会)
- 3) 農薬中毒の症状と治療法
(1998年4月 農林水産省農産園芸局)

本製品安全データシート (MSDS) は、現時点で入手できる最新の資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、MSDS 中の注意事項は通常の実施を前提としたものです。製品使用者が特殊な取扱いをされる場合は、用途、使用法に適した安全対策を実施の上、製品を使用してください。また、当社は、MSDS 記載内容について十分注意を払っていますが、その内容を保証するものではありません。

緊急連絡先：03-5977-5033

財団法人 日本中毒情報センター (事故に伴い急性中毒の恐れがある場合に限る)

中毒110番 一般市民専用電話 (大阪) 072-727-2499 (情報料無料)

365日24時間対応

(つくば) 029-852-9999 (情報料無料)

365日9~21時対応

医療機関専用有料電話 (大阪) 072-726-9923 (1件2000円)

365日24時間対応

(つくば) 029-851-9999 (1件2000円)

365日9~21時対応

医療機関の方が一般市民専用電話を使用された場合も、情報料1件につき2,000円を徴収します。